令和８年９月定例会特集

郡山市議会 志翔会だより

VOL.38 秋号　令和８年10月発行

今回の特集について

令和８年９月定例会が９月２日から10月１日まで開催され、市政一般質問や常任委員会審査、決算審査を行い、一般会計補正予算案などを可決しました。市政一般質問は９月８日・９日・10日・11日の４日間の日程で実施され、志翔会からは大河原裕勝議員、薄井長広議員、伊藤典夫議員、塩田義智議員、久野三男議員が一般質問を行いました。本号では一般質問の内容に加え、９月定例会に提出された補正予算案や前年度決算などの審議内容についてもお知らせします。



郡山市立美術館では企画展「アーツ・アンドクラフツとデザイン」を11月14日から１月17日まで開催。芸術の秋。時代を超えて人々を魅了するデザインと思想をお楽しみください。

令和８年９月定例会について

郡山市、「選ばれるまち」へ取組を推進！
９月補正予算 約53億円
～県内外との関わりを生み出し、地域を元気に。新たな行政課題に対応し、住み続けたくなるまちへ～

９月定例会では、一般会計・特別会計の補正予算案などを審議しました。補正予算は、一般会計がプラス52億8,790万円（補正後1,480億9,351万円）、特別会計がプラス９億3,319万円で、両会計の補正額はプラス62億2,108万円、補正後の予算総額は2,514億8,947万円となっています。 今回の補正は、当初予算並びに６月補正予算の編成方針を継承し、県内外との関わりを生み出す取り組みと、新たな行政課題や需要への対応の「２本柱」で編成されており、補正予算案はすべて原案のとおり可決されました。

【Ⅰ】県内外との関わりを生み出し、地域を元気にする「選ばれるまち」への取組

県内外との関わりを生み出し、地域を元気にすることで、「選ばれるまち」を目指します。当初予算と６月補正予算で示した方針を引き継ぎ、市民とともにまちを動かすため、必要となる事業を盛り込みました。地域の魅力を高め、まちの活力につなげる取組を進めます。

【Ⅱ】新たな行政課題や需要への対応

新たに生じた行政課題や需要に対応し、市民の暮らしの快適さを高めるため、必要となる事業を盛り込みました。「選ばれるまち」を目指す取組とあわせて、日々の暮らしを支え、これからも住み続けたくなるまちづくりを進めていきます。

令和７年度決算を審査

９月28日から10月１日まで決算特別委員会を開き、令和７年度一般会計決算認定など29件を審査しました。質疑と採決を行い、すべて認定すべきものと決定しました。最終日の本会議では、決算等議案29件をすべて認定し、追加提出された人事案件２件についても同意しました。

議員紹介

・氏名　・期数／地区　・連絡先
・会派役職　・市議会役職



事務局次長（会派会計担当）
総務財政常任委員
郡山市都市計画審議会委員
広聴広報委員
議会改革特別委員会委員

本田（ほんだ） 豊栄（とよえい）
１期　西田町
☎090-6253-8473



事務局次長（政務活動費担当）
議会運営委員
建設環境常任委員
政務活動費経理責任者会議座長
本市の特性を活かした選ばれるまちづくり特別委員会委員

大河原（おおかわら） 裕勝（ひろかつ）
１期　喜久田町
☎953-5617



政務調査会副会長
建設環境常任委員会副委員長
本市の特性を活かした選ばれるまちづくり特別委員会委員

薄井（うすい） 長広（たけひろ）
１期　安積町
☎090-2791-7000



事務局長
文教経済常任委員会副委員長
議会改革特別委員会委員

伊藤（いとう） 典夫（のりお）
１期　湖南町
☎090-4880-7761



政務調査会長
議会運営委員
生活福祉常任委員
広聴広報委員長
議会改革特別委員会委員

加藤（かとう） 漢太（かんた）
１期　久留米
☎090-2027-4131



幹事長
議会運営委員長
総務財政常任委員
議会改革特別委員会委員

森合（もりあい） 秀行（ひでゆき）
３期　安積町
☎953-7885



顧問（元議長）
総務財政常任委員
郡山地方広域消防組合議会議員

塩田（しおた） 義智（よしとも）
５期　三穂田町
☎945-2015



郡山市議会議長
郡山地方広域消防組合議長

近内（こんない） 利男（としお）
５期　緑ケ丘
☎942-7967



会長
議会運営委員
生活福祉常任委員会委員長
郡山地方広域消防組合議会議員
郡山地方社会福祉審議会委員

久野（ひさの） 三男（みつお）
５期　方八町
☎943-3200



最高顧問（前議長）
文教経済常任委員
郡山地方広域消防組合議会議員

佐藤（さとう） 政喜（まさき）
５期　大槻町
☎951-2316



相談役
建設環境常任委員
郡山市都市計画審議会委員
郡山地方広域消防組合議会議員
本市の特性を活かした選ばれるまちづくり特別委員会委員長

大城（おおしろ） 宏之（ひろゆき）
６期　安積町
☎945-6566

９月定例会市政一般質問

要　旨

環境教育の重要性について

問 小さい頃から「ごみ環境・減量・リサイクル」の学びは重要であるが、富久山クリーンセンターに加え、新河内クリーンセンターを環境学習の場として活用する計画はあるのか、見解は。

大河原裕勝

答 新河内クリーンセンターでは、富久山クリーンセンターと内容の差別化を図り、「再生可能エネルギー」や「自然環境保全」など、他の環境分野に関するコンセプトを持つ環境学習の場としての活用を検討していく。



逢瀬町にある
河内クリーンセンター

観光誘客への対応について

問 アフターＤＣに向けて、観光客を市内での宿泊に誘導する施策が必要だと考えるが、見解は。

答 「こおりやま開拓クーポン」による宿泊料の割引サービスを11月から実施していく。さらに、宿泊需要の喚起と観光消費拡大による地域経済の活性化を図っていく。



各駅は市内観光の出発拠点
（JR磐梯熱海駅）

プール施設の老朽化状況等について

問 郡山市立小学校にあるプール施設の老朽化状況と維持管理費用について、見解は。

薄井　長広

答 現在、耐用年数30年を経過した学校プールは、76施設中56施設（74％）である。建設から30年でプール槽の入れ替えなどが必要で、大規模改修では１施設当たり約1.15億円を要する。維持管理費用は１年間で１施設当たり、修繕費が約16万円、水道光熱費約40万円で、全76施設では約4,256万円となる。



市内学校プール

河川敷の草刈りについて

問 笹原川の両岸の草刈りなどを担う方々の高齢化が進んでいる。リモコン型草刈り機を増やし、市民に貸し出すことについて、見解は。

答 リモコン型草刈り機については、本年７月に１台を導入した。今後は、使用前の作業研修を行い、町内会や河川愛護会において積極的に活用いただき、同機の稼働状況や導入による効果及び課題等を検証した上で、追加購入を検討したい。



活用が進む
リモコン型草刈り機

猪苗代湖畔における松枯れ被害の対応について

問 湖南町側の被害状況と、今後の対応について、見解は。

伊藤　典夫

答 令和７年度末まで、被害木を郡山市が168本・財産区が117本、計285本の伐倒と燻蒸等を行った。また、本年７月まで舘浜において被害木32本を伐倒している。また各浜には被害木や枯損木のほかに雑木があるが、本年度は約130本を伐倒する予定だ。更に、倒木等の可能性がある危険個所においては既に約50カ所に看板を設置し啓発している。今後は市が創設した「森林病害虫対策補助金」及び県の森林環境交付金を活用した「猪苗代湖畔松くい虫被害木対策補助金」による支援を行うと共に、引き続き県や国へ予算等の要望を行いながら、各財産区と協議を重ね対応していく。



人気の猪苗代湖畔でのレジャー

鳥獣被害対策について

問 害鳥獣被害が顕著な地区と個体別捕獲頭数、更に被害対策。また、ニホンジカ被害にあった布引高原の今後の支援について、見解は。

答 本年６月末時点で市内全域での捕獲頭数は824頭で、前年同月比155頭の増となった。主な獣種別ではツキノワグマは62頭で36頭の増。ニホンジカは56頭で15頭の増。イノシシは88頭で12頭の増であり、湖南町のツキノワグマ、西部地域のニホンジカの捕獲が顕著であるため、ツキノワグマを捕獲しやすいドラム式箱わなの増設や、シカの侵入防止対策として、従来より高さのある電気柵の設置を進めている。また、風力発電設備建て替え後の、フラワープロジェクトにおいては課題である、有害鳥獣による食害対策や担い手確保など、地元生産組合や、地域の方々と丁寧に協議していく。



湖南布引高原の
深刻な鳥獣被害

郡山産品について

問 本市の農畜水産物におけるブランド品目にはどのようなものがあるのか、見解は。

塩田　義智

答 主な農畜産物としては、基幹作物である「あさか舞」や、明治期の開拓当時からも貴重なたんぱく源であった「鯉」、また、高糖度の「特選郡山梨」、更には、肉質等級Ａ４以上の雌牛である「うねめ牛」、そして郡山ブランド野菜がある。



輝ける郡山の農産物

高齢者が安心して利用できる地域医療について

問 今後、ますます高齢化が進む中で、持続可能で安心できる地域医療が必要だが、見解は。

答 日頃から、ご自身の健康状態を把握していただける「かかりつけ医」が重要となり、その「かかりつけ医」を中心に、地域の医療機関が連携して対応できるように、郡山医師会や福島県とともに、取り組みを進めていく考えだ。



医療介護病院と休日・夜間急病センターから
なる複合施設「郡山ビッグハート」

災害時における燃料電池車(FCEV)の活用について

問 FCEVは災害時の非常用電源としても活用ができ、防災対策として有効だが、見解は。

久野　三男

答 FCEVは、発電機の機能があり、災害時の非常用電源として有効である。その避難所等での活用では、環境への負荷が低く、多様な機能を有しており、普及に向けた導入支援を積極的に進めていく。



FCEVイメージ図

地域の家族農業における「家族経営協定」について

問 家族労働を主体とする農業経営を持続可能とするために、役割分担を明確にする「家族経営協定」の取り組みが重要となるが、本市では、どのような啓発を行っているのか。

答 本市農業委員会が実施する「農業経営改善指導事業」における改善セミナーの中で、同協定の意義を周知するとともに、福島県と連携して啓発用チラシの配布等を行っていく。



郡山市内の稲作風景

編集後記

今号では、令和８年９月定例会の内容を中心にご紹介しました。「選ばれるまち」に向けた補正予算や前年度決算の審査など、市民生活を支え、まちの将来につなげるための議論が行われました。紙面にはありませんが本定例会では交通空白地の解消や特別支援教育、地域医療、障がい者雇用など、暮らしに身近なテーマも議論されています。紙面では限られたスペースの中で、その一端しかお伝えできませんが、少しでも「議会で何が話されているのか」を身近に感じていただければ幸いです。（伊藤）

志翔会だより　■ 発行：志翔会　■ http://www.shishoukai.jp/

お問い合わせ・ご意見は：〒963-8601　郡山市朝日1-23-7　志翔会　☎ 924-2536 へ

UD FONT